



TICADとは…

Tokyo International Conference on African Development

アフリカの開発をテーマとする国際会議。1993年から日本政府が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、アフリカ連合委員会(AUC)、世界銀行と共同で開催しています。TICADは、アフリカ諸国のみならず、開発に携わる国際機関、民間企業、市民社会も参加するオープンなフォーラムで、国際社会が広く知恵と努力を結集し、真にアフリカの開発につながる議論を行っています。TICADプロセスで日本は公約を発表し、着実に実行することが、アフリカ諸国から高く評価されています。

TICADのあゆみ

1993年
TICAD I




開催地:東京 当時の内閣総理大臣:細川護熙

冷戦が終結し、国際社会のアフリカに対する関心が薄れつつある時期、アフリカへの関心を呼び戻すきっかけとなったバイオニア的な国際会議。アフリカの政治経済改革の遂行、民間セクターの育成、地域協力・地域統合に焦点。アフリカ開発にアジアの経験を生かすことを公約した「アフリカ開発に関する東京宣言」が採択された。


1998年
TICAD II




開催地:東京 当時の内閣総理大臣:小渕恵三

「アフリカの貧困削減と世界経済への統合」がテーマ。アフリカ諸国の「自助努力(オーナーシップ)」と国際社会による開発パートナーの「パートナーシップ」の重要性を提唱。社会開発、経済開発、開発の基盤において数値目標を含む優先的政策・行動を明記した「東京行動計画」が採択された。

2008年
TICAD IV




開催地:横浜 当時の内閣総理大臣:福田康夫

「元気なアフリカを目指して-希望と機会の大陸」がテーマ。今後のアフリカ開発の取り組み・方向性に関する政治的意思を示す「横浜宣言」、今後の具体的な取り組みを示すロードマップとなる「横浜行動計画」が採択された。TICADフォローアッププロセスの導入が決定され、対アフリカODAの倍増も表明された。

2003年
TICAD III




開催地:東京 当時の内閣総理大臣:小泉純一郎

アフリカ開発をアフリカ自らが進めていくために、アフリカ連合(AU)が立ち上げた「アフリカ開発のための新パートナーシップ(NEPAD)」への支援が合意された。TICAD発足以来10年が経過し、アフリカ開発に対するコミットメントを再確認する「TICAD10周年宣言」が発表された。

2013年
TICAD V




開催地:横浜 当時の内閣総理大臣:安倍晋三

「躍動するアフリカと手を携えて」がテーマ。「強固で持続可能な経済」「包摂的で強靱な社会」「平和と安定」の3本柱に沿って、今後のアフリカ開発の方向性を示す「横浜宣言2013」と今後5年間のロードマップとなる「横浜行動計画2013-2017」が採択された。民間セクター主導の成長、アフリカへの投資の重要性が確認され、今後5年間で最大3.2兆円(うちODAが1.4兆円)の官民の取り組みでアフリカを支援していくことが表明された。

2016年
TICAD VIについて



TICAD VIは、2016年8月27、28日に、初めてアフリカのケニアで開催されます。1993年以来、5年毎に日本で開催されてきましたが、TICAD VI以降は3年毎に日本とアフリカにおいて交互に開催することになり、今回が初のアフリカ開催となります。

TICAD VIでは、TICAD V以降に発生したアフリカの諸問題(一次産品価格の下落やエボラ出血熱の流行に見られる保健システムの脆弱性、暴力的過激主義の拡大、等)への対応や、開発と貧困削減に向けたアフリカ自身の取り組み(アジェンダ2063)への支援、国際的な取り組み(気候変動(COP21)や持続可能な開発目標(SDGs))を進めることが期待されています。

写真提供:内閣広報室

AFRICA

この中を開けば
アフリカの今が見えてくる!

NOW



アフリカと日本のつながり

アフリカと聞いて、どんなイメージが浮かびますか？

急激に成長しているアフリカの「今」とは？

アフリカ各地で活躍する日本人の方々の声を聞いてみよう。

きっとアフリカをもっと身近に感じられるでしょう。

アフリカで活躍する日本人

在留日本人は現在約8,020人、またアフリカに進出する日系企業(拠点)数は680社以上です。日系企業は豊富な資源の調達や新たな市場開拓、現地での人材育成を目的としてアフリカに進出し、海外赴任者も増加しています。また個人でも、フェアトレードビジネスなど新規のビジネスチャンスを探し定住する場合も。

出典：外務省「海外在留邦人数調査統計 平成28年要約版」

「平和とおもてなしの国」の海に囲まれた街で

セネガル



野口 哲正さん



Q1. どうしてセネガルに？

学生時代にインターンでルワンダに住み、アフリカが好きになりました。その後、セネガル人の友人との出会い、「平和とおもてなしの国」であること、また民間の日本人が多くない西アフリカに飛び込んでみようという思いから決意しました。

Q2. どんな仕事をしているの？

日本の100円均一商品を中心とした小売店を営んでいます。顧客の8割はセネガル人。現地の生活に密着した商売の特性を生かし、販売データなどを日系企業へ提供するサービスも行っています。

Q3. お休みの日は何をしていますの？

住んでいる首都ダカールは海に囲まれた街。朝はランニングがてら海岸へ。カラフルな舟と、魚を獲る漁師さんを横目に海沿いを走り、夜は友人の日本人が経営しているお店で、新鮮な魚料理を食べるのが何よりの楽しみです。

マルミミゾウの研究をきっかけに

コンゴ共和国



萩原 幹子さん



Q1. どうしてコンゴ共和国に？

イギリス・ケント大学にて保全生物学修士を取得し、コンゴのオザラ・コクア国立公園周辺でのマルミミゾウの畑荒らし問題を調査研究するために来ました。その後ベナン人と結婚し、2008年に調査を終えた後もそのまま定住しています。

Q2. どんな仕事をしているの？

測量・土木技師の夫と始めた会社を営みつつ、JICAプロジェクトの業務調整、日本から来られる方々のテレビや取材といったお仕事のコーディネートなどもやっています。

Q3. お休みの日は何をしていますの？

洗濯や、教会に行ったり、犬猫たちの世話、アフリカンな生地で自分の服やバッグなどの小物を仕立てたりしています。週末は友達や知り合いが訪ねて来るためほとんど家にいます。

エジプト人の夫と農場経営

エジプト



土山 浩子さん



Q1. どうしてエジプトに？

エジプト人の夫とは留学先で出会い、10年ほど日本で生活をしていました。旅行をきっかけにエジプトが非常に好きになり、息子二人のためにも父の国で生活させるほうが良いと思い、家族でエジプトに移り住みました。

Q2. どんな仕事をしているの？

旅行業と農場の経営を20年以上やっています。夏は、エジプト米とエジプト綿を栽培、冬は小麦、牧草、砂糖大根(砂糖の原料)などを栽培し、牛や馬やロバも飼っています。これは仕事ではないですが、カイロの捨て猫を拾ってきて、農場でゆったりと過ごさせています。

Q3. エジプトで一番好きな場所は？

農場がある穀倉地帯のデルタ地方と、エジプトの砂漠です。デルタ地方は活気がありますが、砂漠は静寂が支配しています。お互いに両極端な場所ですが、どちらも癒されます。

年商300億円の若手企業家

タンザニア



金城 拓真さん



Q1. どうしてタンザニアに？

2007年に中古車の販売事業を始めたのですが、「沿岸国で右ハンドルの国」という理由でタンザニアに進出しました。

Q2. どんな仕事をしているの？

タンザニアを中心にアフリカ9カ国で会社を営み、各種販売代理店のほか、子会社をいくつか持っています。販売代理店としては、オートバイやセメント会社などです。また子会社としては、広告会社、ダイヤモンド原石取扱会社などがあります。

Q3. タンザニアで一番好きな場所は？

ダブルツリーホテルのテラスでシーシャ(水タバコ)をするのが好きです。

青年海外協力隊から自動車整備士に

ジンバブエ



新戸 勝己さん



Q1. どうしてジンバブエに？

青年海外協力隊員がきっかけです。海外に出てみたいくて、友人とともに「受験してみよう!」ということになりました。

Q2. どんな仕事をしているの？

自動車修理業(1998年に開業)を営んでいます。開業当初は車を点検することが一般的ではなかったため、ジンバブエ人の整備士に部品の加工の仕方を指導したり、ディーラーで修理指導や点検の重要性を指導したりもしました。

Q3. お休みの日は何をしていますの？

掃除、洗濯、ゴルフ、オートバイ関係、お酒などです。

Q4. ジンバブエで一番好きな場所は？

ドンボシャワ(首都ハラレ近郊にある丘)。見晴らしがとても良いです。



農業・漁業

A

Agriculture

コーヒー豆、カカオ豆、バニラビーンズ、ゴマ、タコなど、日本の日常に欠かせない食品が多くアフリカから輸入されている。一方で、コメをたくさん食べるアフリカ。今では東南アジアからの輸入に頼っているが、日本は食料自給できるように稲作の支援を行っている。

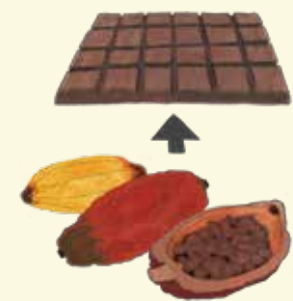


ビジネス

B

Business

アフリカのビジネスは急速に発展し、日本からの投資も拡大している。日本とアフリカのビジネスの先駆者といわれているのが、明治時代の古谷駒平という商人。南アフリカ共和国で日本製の雑貨や美術品を扱う「ミカド商会」を開き成功を収めた。



カカオ

C

Cacao

ココアやチョコレートの原料で、日本は主にガーナやコートジボワールから年間約3万トンを入力。全体輸入量の約80%を占める。※1



ダイヤモンド

D

Diamond

2015年11月、ボツワナ共和国で史上2番目に大きなダイヤモンドの原石(1,111カラット)が発見された。しかし、映画『ブラッド・ダイヤモンド』にも描かれているように、ダイヤモンドは紛争の原因にもなる。



エネルギー資源

E

Energy

アフリカは石油、天然ガス、石炭などのエネルギー資源の宝庫。日本は、エネルギー資源の多くを輸入に依存しており、アフリカは重要な輸入先となっている。他方、日本は持続可能なエネルギーの活用に向け、恵まれた自然環境を生かした太陽光発電や地熱発電の開発を支援している。



J

アフリカの桜・紫の桜

Jacaranda

ジャカランダは中南米原産の木で、アフリカでは9月～10月に紫色の花を3週間ほど咲かせる。「紫の桜」「アフリカの桜」ともいわれ、アフリカの人々に愛されている。



Photo: JICA / 久野武志

K

キリマンジャロ山

Kilimanjaro

タンザニア北東部にあり、標高は5,895m。アフリカ大陸の最高峰。山脈に属さない独立峰としては世界一の高さを誇る。山域がキリマンジャロ国立公園に指定されている。また、コーヒーの栽培も有名。



L

アフリカ大陸の広さ

Land

約3,022万km²。この面積はアメリカ、ヨーロッパ、中国、日本の合計面積よりも広い!

NOLLYWOOD



M

映画

Movie

ナイジェリアのラゴスは、ハリウッド(米国・ロサンゼルス)、ボリウッド(インド・ムンバイ)に並び、ノリウッドと称されるほど映画産業が盛ん。ナイジェリアの年間作品製作本数は、ハリウッドをしのぐともいわれている。

AFR

AtoZ



R

道路

Road

経済成長に伴い、インフラの整備が進められている。特に物流の動脈である幹線道路は急ピッチで進めていく必要がある。東アフリカではケニアのモンバサ港からウガンダ、ルワンダ、ブルンジまで続く「北部回廊」の整備に取り組んでいる。



S

スポーツ

Sports

アフリカの有名なスポーツ選手が世界で活躍している。サッカーではディディエ・ドログバ選手やサミュエル・エトー選手が有名。他にもラグビーワールドカップで日本代表との試合が話題になった南アフリカ代表や、ケニアやエチオピアのマラソン選手など、多岐にわたる。



Photo: JICA / 庄司康治

T

観光

Tourism

アフリカは観光資源が豊富。モシ・オトウニャ/ヴィクトリアの滝(ザンビア/ジンバブエ)、メンフィスとその墓地遺跡-ギザからダハシュールまでのピラミッド地帯(エジプト)、ラリベラの岩窟教会群(エチオピア)、ザンバル島のストーン・タウン(タンザニア)、ナミブ砂海(ナミビア共和国)、マラケシュ旧市街(モロッコ)、ケープ植物区保護地域群(南アフリカ共和国)といった世界遺産が数多く存在している。



U

アフリカの大学

University

アフリカにはエジプトのカイロ大学、南アフリカのケープタウン大学、ウガンダのマケレレ大学など伝統校も多い。また、2013年に安倍総理が表明したABEイニシアティブ(5年間で1,000人のアフリカの若者に日本の大学院への留学や企業のインターンシップを提供)というプログラムで、すでに473名(2016年6月現在)のアフリカの若者が来日している。



V

日本車

Vehicle

アフリカでは日本車への信頼はとて厚く、大人気。「マツツ」と呼ばれる日本の中古マイクロバスがケニアのナイロビ市民の通勤手段となっている。



F

Fashion

アフリカのファッション事情

色鮮やかな色彩が特徴的なアフリカ発のブランドが世界で注目され始めている。また最近ではコンゴ共和国の「サブール」という人たちが話題。フランス語で「エンターテイナーでエレガントな人々の集団」という意味の「Société des Ambianceurs et des Personnes Élégantes」の頭文字を取った造語、SAPEからきている。独自のお洒落をし、独特な歩き方をして目を引くことを楽しみとし、暴力はふるわず、清潔でいることが大事とされている。



G

Gender

ジェンダー・女性の活躍

ノーベル平和賞を受賞したケニア人女性、ワンガリ・マータイさんは、2005年来日の際に「もったいない」という日本語に感銘を受け「MOTTAINAI」キャンペーンを提唱した。その他にもリベリアのサーリーフ大統領も2011年にノーベル平和賞を受賞。国会議員に占める女性の割合も高い国が多い。



H

Health

保健医療

千円札の肖像にもなっている野口英世は、ガーナで黄熱病の研究中にこの病に倒れ、死去。その功績をたたえ、1979年に野口記念医学研究所が日本の支援により設立され、現在では西アフリカ地域の感染症対策の拠点となっている。また、近年では住友化学の防虫剤入り蚊帳がマラリア予防に貢献している。



I

Internet

インターネット

日本にいる私たちと同じく、ITはアフリカの生活に欠かせない。2000年の全世界のインターネットユーザー数に占めるアフリカのシェアは1.3%だったが、2015年の11月末には9.8%まで伸びている。ナイジェリアの「Jumia」は「アフリカのAmazon」といわれるアフリカ最大のECサイト。SNSサービス「Mxit」は南アフリカで1,000万アクティブユーザーを持っている。※2

ICA

アフリカってどんなところ？ アフリカと日本の関係って？
遠い国のようにけど意外と身近にもアフリカがあふれている！
アフリカのAから始まる26個のキーワードで
読み解いてみましょう。



N

Nutrition

栄養

味の素は、「最初の1,000日の栄養が、子どもたちの未来を作る」をモットーに、ガーナの伝統的な離乳食「koko」に不足している栄養を補う「KOKO Plus」という栄養サプリメントを販売している。



O

Origin

アフリカ起源

人類発祥の地として知られるアフリカ。そんなアフリカが起源の農作物は、コーヒー、スイカ、オクラ、ソラマメなど、日本の生活になじみ深いものばかり！



P

Phone

スマートフォン・携帯電話

アフリカではスマートフォン・携帯電話の普及率が80%を超えている。固定電話の普及率が低いため、重要なコミュニケーションツールになっているほか、電子マネーシステム「Mペサ」はショートメッセージを使って送金できるなど、生活の中でなくてはならない存在になっている。※3



Q

Quality

アフリカ品質

スターバックスやネスレは、高品質のコーヒー豆の持続可能な供給に向けて、アフリカの小規模農家を支援している。また、高品質なエチオピアシニアプレザーを使用したandu ametのバッグが日本でも人気を博している。

Photo : andu amet



W

Water

安全な水を子どもたちに

JICAはアフリカ各国で安全な水の供給を支援している。また最近では、日常生活の「水」についてもさまざまな工夫がされている。最大50リットルの水を転がして腰や首の負担なく運べる容器や、LIXILが開発した、水を使わずに排泄物を衛生的に処理し、肥料化ができるグリーントイレなどがある。



X

Xylophone

アフリカ木琴

アフリカの民族楽器「バラフォン」と呼ばれる木琴によるアフリカ音楽、アフロポップがある。また、世界的に活躍しているアフリカ出身のミュージシャンも多い。例えば、西アフリカではAkon(セネガル出身R&Bシンガーソングライター)、東アフリカではCamp Mulla(ケニア発のヒップホップグループ)、南部アフリカではJabu Khanyile(南アフリカ共和国のジャズバンドバイエットのボーカリスト)、中部アフリカではPapa Wemba(コンゴのミュージシャン)がいる。



Y

Youth

若年層の人口増加

アフリカでは若年層(15~24歳)の人口が増えており経済発展の原動力として期待されている。また、アフリカの家族は大家族が多く、年長の子どもが妹や弟の世話をするのも日常的。



Z

Zoo

アフリカと日本の動物園

横浜市緑の協会は、2008年からウガンダ野生生物教育センター(UWEC)と協力し、野生動物保護の拡充を目指した草の根技術協力によるプロジェクトを展開している。これまでの交流の中で、横浜とUWECの間には強いつながりが育まれ、よこはま動物園ズーラシアの「アフリカのサバンナ」開園にあたっては、繁殖目的のためにUWECで繁殖したライオンが横浜に貸し出された。